

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
児童家庭福祉Ⅱ Welfare of Children and FamilyⅡ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(保育士養成課程選択必修)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 児童家庭福祉Ⅰ				
同時に履修しておくことが望まれる科目 保育相談支援・保育士養成課程必修科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小竹利夫	講義棟2階	月・火・水・木の8時から18時)		授業中に指示します
授業の概要				
高度な社会システムとともに生活も豊かになっている現代社会において、児童が健全に育ち豊かな人格形成をすることがかえって難しい状況である。児童家庭福祉Ⅱでは事例を中心としながら福祉・教育・心理など多角なアプローチによって理解を深めていき、児童の個々の諸問題に応じた援助技術等を学び、その理解と実践力を図る。				
授業の目標				
①事例を中心として、様々な児童の問題や保護者、地域に対するアプローチ法を説明することができるようにする。②多角なアプローチを理解し児童個々の諸問題に応じた実践力を身につけることができるようにする。③児童福祉の現状と諸問題及びそれに対応する諸制度及び施策について理解し、説明することができるようにする。④児童及び家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解し、説明することができるようにする。				
授業の方法				
基本的に講義形式で授業をおこなう。事例を中心に考察していくので必要に応じてグループ討議やレポートの提出を実施することがある。自ら考えて実践する能力を養うために様々なアプローチ方法を学んでいく。				
学習の成果（学習成果）				
児童福祉の現状と諸問題及びそれに対応する諸制度及び施策について理解するとともに、事例を通して様々な児童の問題や保護者、地域に対するアプローチ法を身に付け、対応を考えることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・児童を取り巻く現代社会について			
第2回目	児童家庭福祉と専門職について			
第3回目	事例分析法について			
第4回目	支援とその方法 傾聴のテクニック			
第5回目	児童家庭福祉援助活動の実際－多動に対する援助の事例			
第6回目	児童家庭福祉援助活動の実際－乳児院における援助事例			

第7回目	児童家庭福祉援助活動の実際－児童養護施設における援助事例
第8回目	児童家庭福祉援助活動の実際－知的障害児に対する援助の事例
第9回目	児童家庭福祉援助活動の実際－母子生活支援施設における援助事例
第10回目	児童家庭福祉援助活動の実際－発達障害児に対する援助の事例
第11回目	支援とその方法 コミュニケーションの取り方
第12回目	児童家庭福祉援助活動の実際－重症心身障害児に対する援助の事例
第13回目	児童家庭福祉援助活動の実際－被虐待児に対する援助の事例
第14回目	児童家庭福祉援助活動の実際－保育所における援助事例
第15回目	児童家庭福祉を担う人々について 授業のまとめ

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業を集中して聞き、質問に対して積極的に答える。必要なことはきちんとノートに取る。
レポート	70%	授業の中でレポートを書く。授業の内容を理解した上で、自分の考えを展開することが求められる。1回5点満点で計14回。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

授業内で適宜資料を配布する。

履修上の留意点・ルール

私語禁止。飲食禁止。